



市民病院 ハナちゃん通信

問 市民病院管理課
☎(48)5050

ハナちゃんフェスティバルを開催します

令和2年5月23日(土)に市民病院において「ハナちゃんフェスティバル」を開催します。

当日は、エントランスホールでの催し、屋台、歯科相談、手術室ツアー、歩行年齢チェックなど幅広い年代の人に楽しんでいただける内容となっています。

平成30年度にも病院祭りを開催しましたが、お越しいただいた人には好評をいただきました。普段、健康であり病院に縁のない人も、一度市民病院に来てみませんか。

フェスティバル当日は、開院記念日と重なります。開院32年となり、ますます市民の皆さんに愛される病院を目指して、当院の基本理念である「温かな心のこもった医療」を実践していきます。



碧南の歴史へのいざない

問 文化財課内市史資料調査室
☎(41)4566

No.67 はるか昔の大浜湊(4)

松平広忠より大浜郷の砦を守ることを命じられた長田重元は、天文12(1543)年自身の屋敷の北西に宝珠寺を創建しました。永禄6(1563)年、重元の子に永井直勝が誕生しました。初めは長田伝八郎として徳川家康の子である信康に仕え、信康の死後は家康に仕え、家号を永井に改めました。

直勝が家康のもとで勤めていた天正10(1582)年6月に、いわゆる本能寺の変に遭遇します。

本能寺の変は、織田信長が京都・本能寺にて、家臣の明智光秀に討たれた事件です。このとき、家康は少数の供廻りとともに和泉国(大阪府)堺に投宿しており、生命の危機に直面していました。実はこの少数の供廻りのなかに、御小姓組として大浜出身の永井直勝と親族の永田瀬兵衛の2人がいたのです。

家康は、道中での一揆による落武者狩りの危険を冒して本国三河に帰還しようとしています。のちに「神君伊賀越え」と呼ばれる逃避行です。

この逃避行で家康一行は6月2日に堺を出立し、

6月4日深夜もしくは5日未明に三河に帰還しています。その経路については諸説ありますが、帰還した場所が大浜湊であったのです。

家康の家臣の松平家忠によると、家康一行は伊賀・伊勢路を経て(船に乗り)大浜に着き、家来の衆が大浜に迎えに行った、とあります。

また直勝の二男直清の覚書によると、白子より船に乗り夕暮れ方大浜に着いた、御迎えに出た者が引き潮で留まった船を大勢でひいて大浜湊まで運び、長田重元が家康を長田屋敷へ迎えた、家康は翌朝岡崎へ向かったといえます。本国三河で、しかも供廻りの出生地・大浜湊に着いた家康はさぞ安堵したことでしょう。こうした一件を経て、時代は徳川の世に移ります。



△宝珠寺(音羽町)